
第 41 回 日本図書館協会図書館建築賞 (資料)

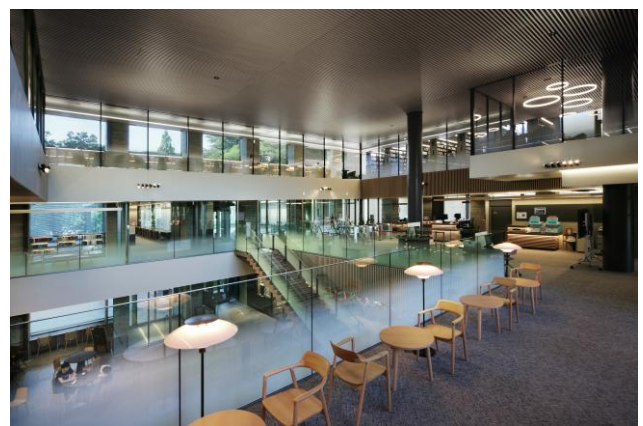
〔講評〕

受賞館：学習院大学図書館（東京都）

学習院大学図書館は、都市型キャンパスの限られた敷地に建設された高層棟（東 1 号館）に在り、2 階から 11 階まで機能的に積層されている。図書館としての基本機能に加え、学生の学習や滞在を支援するスペース、さらには大学の修学支援部門との連携機能も備えている。フロア面積の制限を逆手に取り、階ごとに明確な役割を持たせることで、利用者が迷わずに目的を果たしやすい構成となっている点に特長がある。

利用者は中庭に面する外部階段や 1 階カフェからの内階段で 2 階図書館にアクセスでき、その入口近くにサービスカウンター等を集約し、効率的な運用を実現している。各階には特色ある空間が展開され、それらを外周階段でつなぐことで、階ごとにまとまりある内部空間を確保しつつ、場所に応じたインテリアの変化と連続性を絡めて、利用者の空間把握の理解を助けている。

図書館はキャンパス奥に位置するが、高層棟として視認性が高く、中庭整備も相まってキャンパス全体の動線の活性化に寄与している。総じて、利便性と機能性に優れた、学生にとって魅力的な図書館であり、限られた敷地において、多様な機能を多層階に展開する大学図書館の参考になりうる事例として評価できる。併せて、その横にひっそりと佇む前川國男設計の旧図書館が未来に継承されたことは、新図書館高層化の大きな功績とも言える。



▲図書館入口のある 2 階から、1～4 階のエントランスアトリウムをみる。1 階のカフェや国際センターとともに、雑誌・新聞ラウンジ、自習室、ラーニング・サポートセンターなどがシームレスにつながり、コンパクトに視界に入ってくる
(学習院大学図書館)